

OKUTAMA

Re: design



わたしがつくる、
わたしたちの奥多摩へ

OKUTAMA Re: design～わたしがつくる、わたしたちの奥多摩へ～ の実現に向けて

令和7年度から10か年にわたり、町の指針となる「第6期奥多摩町長期総合計画」がスタートします。

首都東京の西端に位置する奥多摩町は、自然豊かで人情味あふれる「まち」ですが、過疎化が進む「町」でもあります。町では子育て支援や移住定住施策をはじめ様々な施策を展開していますが、多くの課題を行政だけで解決することは容易ではありません。

この計画の策定にあたっては、「住民等との協創」を重要なテーマに掲げ、町民皆様からのご意見をいただくために、役場の若手職員によるワーキンググループを設置したほか、町が包括連携協定を結ぶ多摩大学の協力を得て、住民参加ワークショップを開催するとともに、長期総合計画審議会での審議を含め、バランスの取れた計画づくりを推進し、皆様からも多くのご意見、ご提案をいただきました。

そして、令和6年12月の町議会で慎重な審議のうえ、目まぐるしく変化する時代でも変わることのないであろう、みなさんが大切にしている想いを込めて、「自然の中で わたしが くらし つながり 挑戦できる おくたま」をまちの将来像とし、「活性化」「持続化」「効率化」を未来をつくる3つのコンセプトとして位置づけました。

これからのまちづくりにおいては、歴史と伝統を大切にしながら持続可能で魅力あふれる町を目指すとともに、これまでに得られた成果と経験を継承し、町の発展に向けて地域の課題に対応した柔軟かつ効果的な取組みを進めていく決意があります。

結びに、この計画の策定にあたり、ご審議を重ねていただきました長期総合計画審議会の皆様をはじめ、ご意見、ご提案をお寄せいただきました多くの町民皆様、関係各位に心から感謝申し上げます。

奥多摩町長 師岡伸公

1：第6期奥多摩町長期総合計画の概要	5
1－1 計画の目的	6
1－2 計画のタイトル（キャッチフレーズ）	6
1－3 計画の位置づけ	7
1－4 策定の流れ	8
1－5 計画期間	9
1－6 計画の全体構成とSDGs	9
1－7 評価指標と計画の評価	10
2：まちづくりに関する町民意識	11
2－1 まちづくり住民アンケート	12
2－2 第5期長期総合計画の評価	17
2－3 みんなで描いたまちの未来（住民参加ワークショップ）	20
2－4 意見募集・パブリックコメント	31
3：基本構想	33
3－1 まちの将来像	34
3－2 私たちが大事にする姿勢	35
3－3 未来をつくる3つのコンセプト	36
4：基本計画	37
4－1 基本計画と個別計画の関係	38
4－2 人口推計と目標設定	39
4－3 施策の体系	40
■ 活性化（創造する・挑戦する）	
□ 将来像1 生まれる・育む・挑むまちづくり	41
① 子育て推進	41
② 起業の支援	42
③ 観光資源の開発	42
④ デジタル化の推進	43
⑤ 住民参加型事業の開拓・展開	43
□ 将来像2 創る・繋がる・広がるまちづくり	44
① 広域連携の推進（庁内連携、他市町村との連携）	44
② 幅広い世代が参加できる事業の充実・開拓	45
③ コミュニティの形成・活性化	45
④ 多様性の尊重	46
⑤ 住民サービスの充実	46

□ 将来像3 賑わう・満ちる・巡るまちづくり	47
① まちの活性化	47
② 観光資源の活用	47
③ 移住・定住促進	48
④ 公共施設、交通機関の充実・利活用	48
⑤ 暮らしの満足度向上	48
■ 持続化（続ける・守る・再生する）	
□ 将来像1 サステナブルなまちづくり	49
① 資源を活かす・大切にすまちづくり	49
② 子どもの成長を見守るまちづくり	50
③ 誰もが学び続けるまちづくり	50
□ 将来像2 レジリエンスなまちづくり	51
① 交通インフラの整備されたまちづくり	51
② 公共インフラの整備されたまちづくり	51
□ 将来像3 セーフティーなまちづくり	52
① 災害に負けないまちづくり	52
② 犯罪・事故から人を守るまちづくり	52
③ 安全・安心して日常生活を過ごせるまちづくり	53
■ 効率化（無駄をはぶく・まとめる・やめる）	
□ 将来像1 スマートなまちづくり	54
① 効果的な組織運営、人材配置・育成	54
② 建物の取捨選択と活用の見直し	54
③ 情報発信の改革	55
□ 将来像2 フラットなまちづくり	56
① デジタル化などによる窓口業務の効率化の検討	56
② 業務の遠隔化の検討	56
③ 業務負担の平準化と質の維持	57
④ 誰でも同様のサービスを受けられる体制づくり	57
□ 将来像3 リンク／シェアするまちづくり	58
① 庁内の知識の共有や職員間の情報共有	58
② 他自治体との連携強化	58
③ 町の魅力をシェアする	58
④ 住民の意見をシェアする	59
自治体運営の方向性 （第6次行政改革大綱）	60
① 新たな時代に順応した行政サービスの提供	60
② 時代の変化に適応した組織運営と人材育成	61
③ 将来を見据えた持続可能な財政運営の推進	61

概要

1

1-1 計画の目的

第5期長期総合計画の計画期間が令和6年度で終了するにあたり、10年先の奥多摩町の未来を見据え、まちづくりを進めていくために、第6期奥多摩町長期総合計画を策定しました。

長期総合計画は、奥多摩町の未来をみんなで作るための設計図です。

本計画では、10年先の令和16年度を見据え、これからのまちづくりの将来像と方向性を示しています。

基本構想に掲げているまちの将来像を実現していくために、行政だけでなく、住民一人ひとり何ができるのか考え、一丸となってまちづくりを進めていくことが重要です。

「みんな」「一人ひとり」とは
大人も子どもも障害のある人もない人も性別や年齢、
国籍など関係なく奥多摩町で暮らしたり働いたり過ごしたりしている人、
一人ひとりを言います。
一人ひとりの心に芽生えた「奥多摩町が好き」を胸に、
みんなで奥多摩町をつくっていきます。

長期総合計画とは

長期総合計画は、平成23年の地方自治法の一部改正により策定を義務付けていた規定が廃止されました。奥多摩町では、まちの将来像を描くことは重要と捉え、引き続き長期総合計画を最上位計画として策定していくこととしました。

1-2 計画のタイトル（キャッチフレーズ）

OKUTAMA Re: design
～わたしがつくる、わたしたちの奥多摩へ～

奥多摩ならではの豊かな自然、人材、多彩な文化や資源など、この町に根付く価値あるものに改めて目を向けそれらを最大限活用しながら、より良い未来に向けて新たなリソースやアイデアを取り入れていく姿勢、また、住民一人ひとりがまちの未来をつくる大切なひとり＝「わたし」であることを自覚できるよう想いを込めて第6期奥多摩町長期総合計画のタイトル（キャッチフレーズ）としました。

1-3 計画の位置づけ

長期総合計画は、基本構想と基本計画からなる最上位計画です。

基本構想

長期的な視点に立ち、まちの将来像や、その実現に向けて大切に考える考え方を示すものです。総合的かつ計画的な行政運営等を図るための指針となります。

基本計画

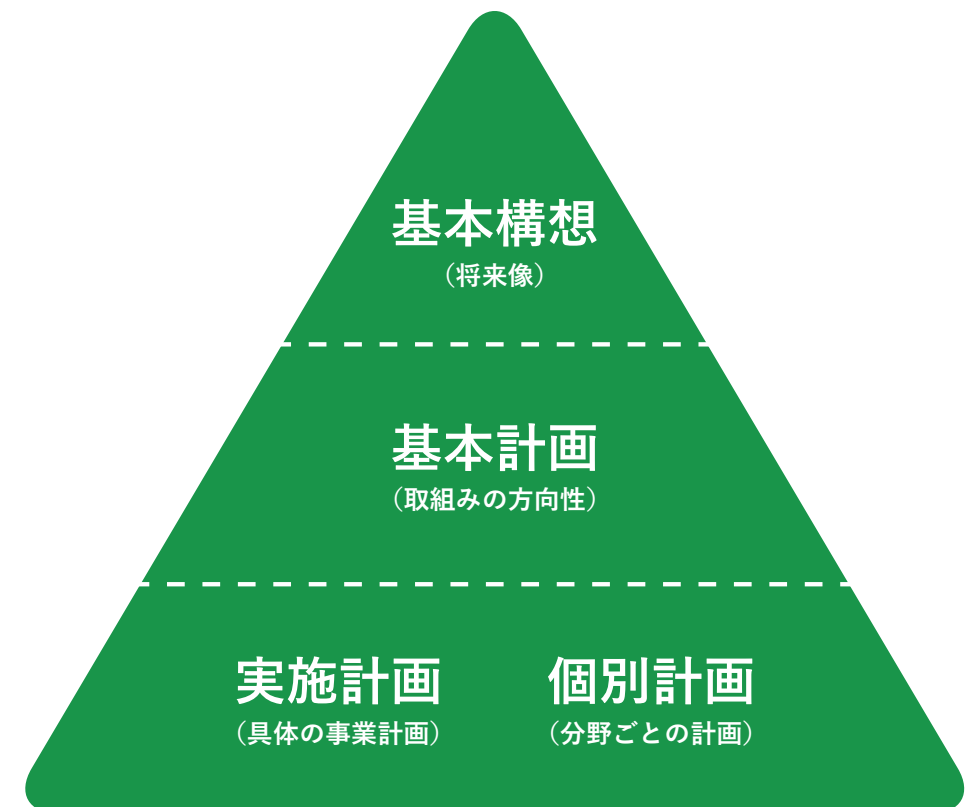
基本構想に掲げたまちの将来像を実現するため、計画期間内に町が進める取組みの方向性を定めるものです。本計画では、分野での整理ではなく「活性化」「持続化」「効率化」の横断的な3つの視点でまとめています。

実施計画

基本構想や基本計画に基づいて、施策の実現に向けた具体的な事業を定めた計画です。

個別計画

自治体では、各分野等で個別の計画を策定しています。基本構想で定めたまちの将来像の実現に向けて、基本計画に定めた方向性と取組み例を踏まえ、個別計画等と連動させながら具体の事業を進めていきます。



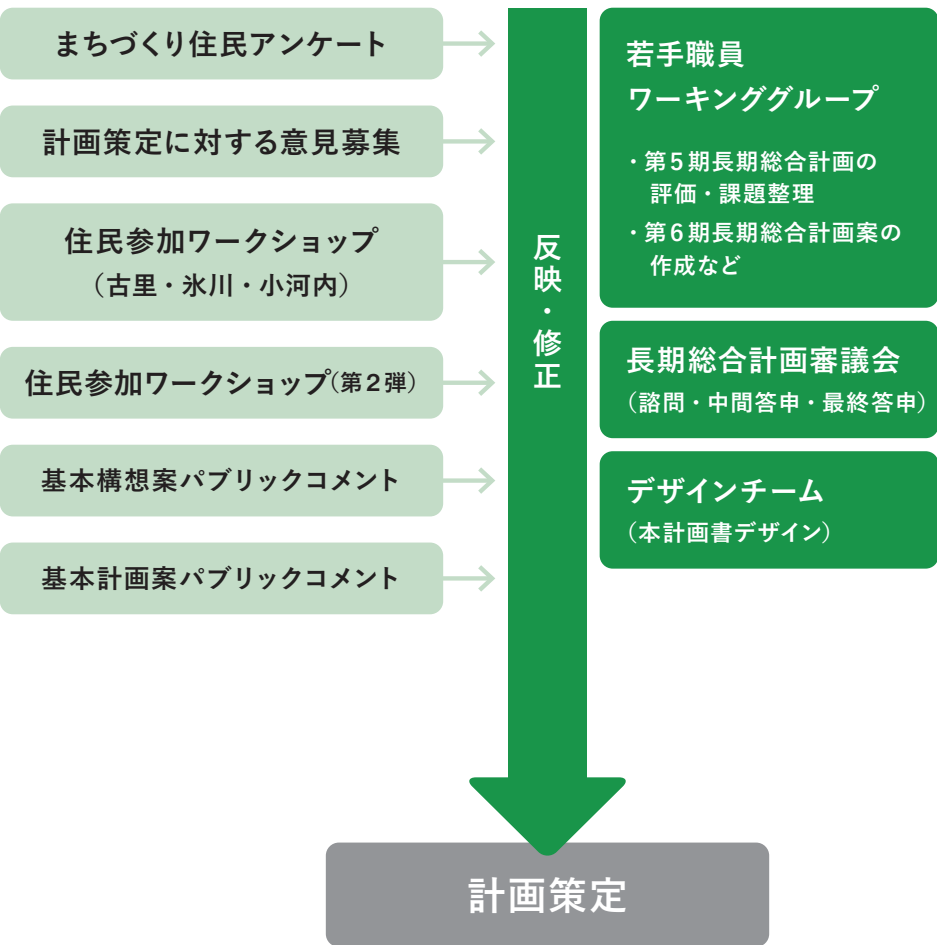
1-4 策定の流れ

本計画は、「住民等との協創」をテーマに、まちづくり住民アンケート、住民参加ワークショップで出た意見やキーワードなどを基に計画づくりを行いました。

通常の計画策定では、たたき台を作成してからそれを基に進めることが多くありますが、人口が約4,500人である奥多摩町だからこそ、きめ細かく住民等の声を聞き、皆さんの意見を中心に据えて計画を策定したいと考えました。

策定にあたっては、まちの未来を担う役場の若手職員でワーキンググループを立ち上げ、第5期長期総合計画の評価を含め、アンケート、ワークショップでの意見・キーワードを基に、重なって見えてくる課題や奥多摩町らしさ、それを表すキーワードなどを抽出し、新しい視点も盛り込みながら計画案を作成しました。

また、並行して長期総合計画審議会での審議を重ね、住民参加ワークショップでのブラッシュアップを経て、さらにはパブリックコメントを2回行うなど、たくさんの方のご協力とご意見をいただきながら計画を策定しました。



1-5 計画期間

令和7年度から令和16年度の10年間を計画期間とします。

1-6 計画の全体構成とSDGs

本計画の全体構成は以下のとおりです。



各事業を進めるにあたっては、SDGsで掲げられた目標を達成できるよう留意しながら進めます。



SDGsは、持続可能な開発のために国際社会が進むべき方向の道しるべとして、「誰一人取り残さない」という理念のもと、「17の目標(ゴール)」と「169のターゲット(具体目標)」を掲げています。

第6期奥多摩町長期総合計画で目指すまちづくりでは、SDGsの考え方や方向性と共通するものがあり、基本計画に掲げる各施策を推進することで、SDGsの達成に取り組んでいきます。

1-7 評価指標と計画の評価

第5期長期総合計画では計画策定時に評価指標を定めていましたが、社会情勢や時代の変化により、指標として適さないものも出てきました。

本計画では、目まぐるしく変化する情勢に合わせ柔軟に対応できるよう、固定化した評価指標を設定するのではなく、より職員の主体性を高めるため、本計画とは別に評価指標の設定を行います。

また、評価指標の形骸化を防ぐため、計画を評価していく外部有識者を含む評価委員会を立ち上げ、現状や進捗状況等を確認・分析できるデータに基づき評価を行っていきます。

まちづくりに
関する町民意識

2

2 まちづくりに関する町民意識

2-1 まちづくり住民アンケート

奥多摩町全域を対象とし、第5期長期総合計画の進捗状況を住民の視点で評価するとともに、まちづくりに対する考えや将来への意見、提案などを把握し、第6期奥多摩町長期総合計画に反映していくことを目的にまちづくり住民アンケートを実施しました。

調査対象：町内在住の16歳以上の男女1,000人（住民基本台帳より無作為抽出）

調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収もしくはインターネット回答）

※インターネット回答は、今回初めての試みとして実施。

調査期間：令和5年7月7日～令和5年7月27日

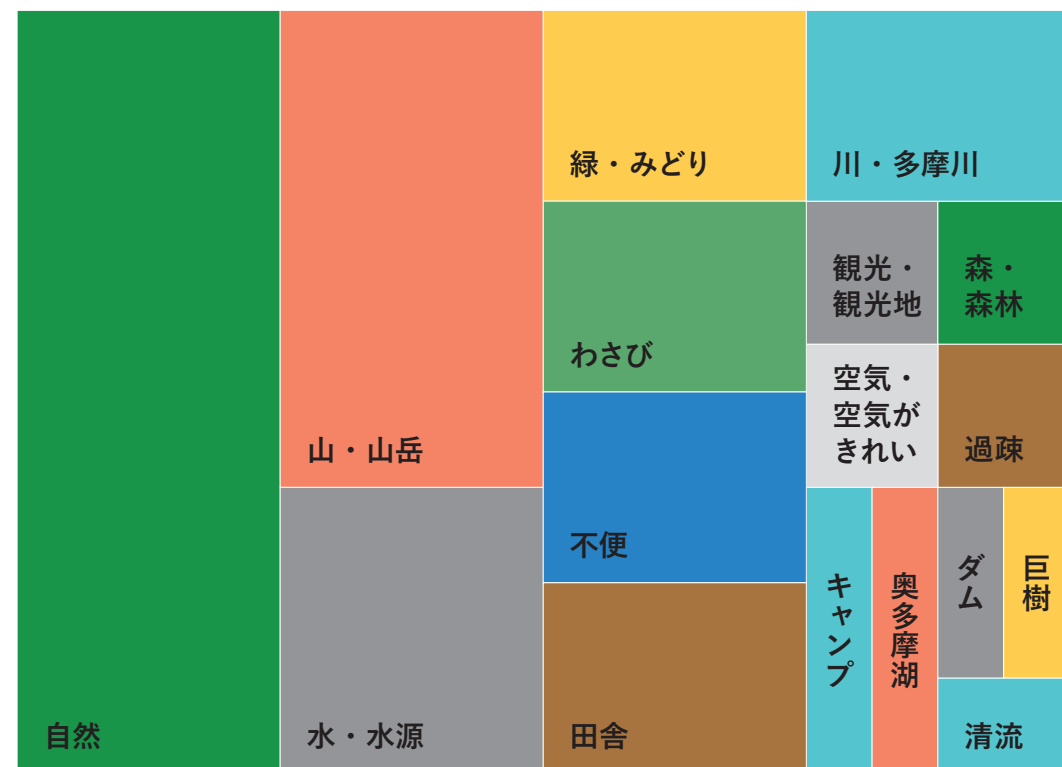
回収状況：回収数378票、回収率37.8%（うちインターネット回収4.0%）

調査内容：住みやすさや各事業の満足度や重要度、奥多摩町らしさのイメージなど

□ 奥多摩町らしさ

「奥多摩町」をイメージするキーワードとして記載されたものは以下のとおりです。

奥多摩町をイメージするキーワードの割合



□ 奥多摩町のイメージ

自然 115件

●大自然。東京都では一番の田舎だが、全国では都会といっても過言ではない。
●都会から近い自然の豊かな町。みどり、川、田舎。 ●自然豊かな町、住民どうし
が助け合う町、人情豊かな町 ●自然豊かな奥多摩町だが人口減少が不満である。
●自然、山、湖、ダム、登山、空気がきれい ●自然と緑豊かな町 自然と共に生きる
町 ●自然環境が豊かな町 ●自然をいかし、観光来訪者が訪れる様もっと力を入
れてほしい。 ●自然が多い（野生動物など）山葵、水がきれい

山（山岳含む） 64件

● 緑豊かな山々、春の新緑、秋の紅葉・観光客が多い 山に囲まれている。

水（水源） 34件

●水がきれい、緑が豊か。 ●涼しい 水が美味しい、安全 ●水と緑がキレイな町

緑、みどり 27件

●緑が多く、空気がきれい。 ●水と緑の町でいやされる。人口減少 高齢化社会

川（多摩川含む） 25件

わさび、山葵、ワサビ 19件

不便 19件

いなか、田舎 18件

観光（観光地含む） 14件

森、森林 13件

空気（空気がきれい含む） 12件

●空気がきれいで住みよい町・空気がきれい。

過疎（過疎地、過疎化含む） 12件

● 高齢者及び過疎の町

キャンプ（キャンプ場含む） 9件

奥多摩湖 9件

ダム 7件

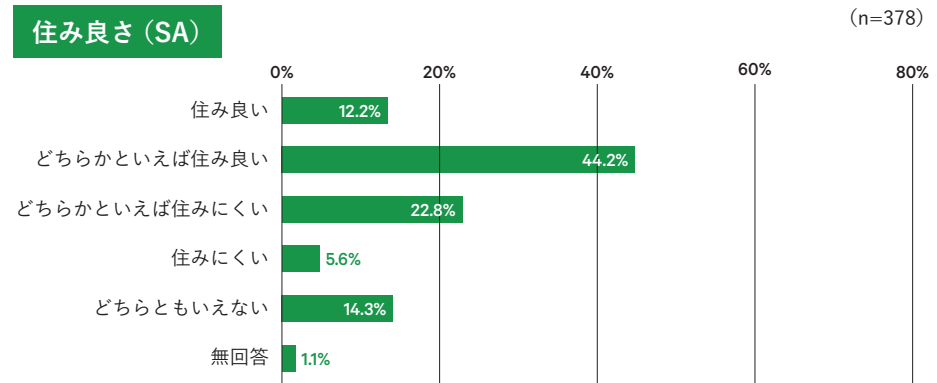
巨樹（巨木含む） 5件

清流 4件

□ 住みやすさ

住み良い 56.4%

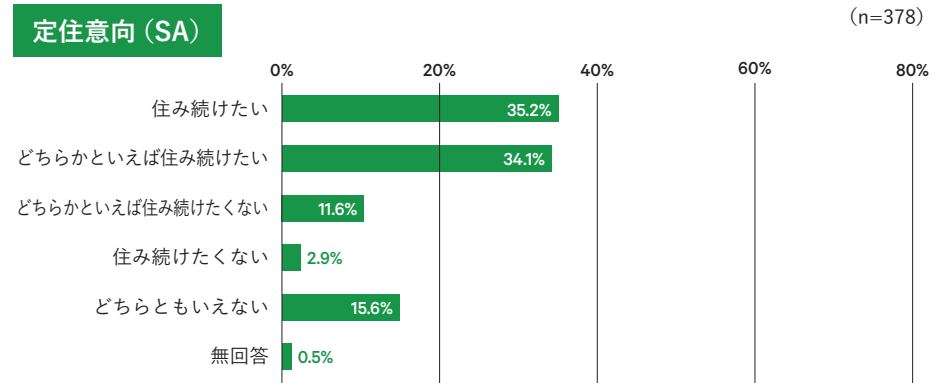
現在の奥多摩町の住み良さについて、「住み良い」（12.2％）と「どちらかといえ
ば住み良い」（44.2％）を合わせた『住み良い』が 56.4％、「どちらかといえ
ば住みにくい」（22.8％）、「住みにくい」（5.6％）を合わせた『住みにくい』が
28.4％となっています。



□ 定住意向

住み続けたい 69.3%

今後も奥多摩町に住み続けたいかどうかについて、「住み続けたい」（35.2％）
と「どちらかといえば住み続けたい」（34.1％）を合わせた『住み続けたい』が
69.3％、「どちらかといえば住み続けたくない」（11.6％）と「住み続けたくない」
（2.9％）を合わせた『住み続けたくない』が 14.5％となっています。



□ 幸福度

5つの幸福要素それぞれについて、自身の幸福度を評価していただいた結果を、
「思う」と「やや思う」を合わせた『思う』、及び「あまり思わない」と「思わない」
を合わせた『思わない』で分けると、以下のとおりとなります。

	思う	思わない
心身ともに健康である	78.1%	20.3%
豊かな自然環境が守られている	76.4%	21.9%
健やかに育まれている	75.9%	21.1%
経済的に大きな不安がない	52.1%	45.3%
地域社会やまちづくりに参加している	53.7%	44.5%

□ 住民の満足度を指標とする20施策について

第5期長期総合計画の基本計画において、住民の満足度を評価の指標とする20
の主要施策それぞれについて、その満足度の評価結果のうち、各上位項目は以下
のとおりです。

『満足している』の上位項目

健康の自己管理意識の普及・啓発	73.8%
職員の対応等	63.5%
文化財の保護と活用	60.6%
健全な青少年の育成	60.0%
豊かな自然・生態系の保全、 環境まちづくりの推進	59.8%
奥多摩ならではの教育の実施	57.7%
地域でお互いをささえあう環境づくり	56.9%
水源教育の実施	56.4%
家庭教育への支援、推進	54.7%
施策評価実施結果	53.2%

『不満である』の上位項目

利用しやすい交通手段の充実	69.0%
町道や生活道路の整備	47.1%
生涯安心して暮らせる制度の推進	45.8%
循環型社会の形成	44.2%
住民提案の活用や住民と行政の協働	41.8%
財源の確保	41.6%
生涯学習の推進	40.4%
資源循環型社会形成、身近な生活ルールの普及	40.2%
周辺市町村との連携	39.1%
地域でお互いをささえあう環境づくり	38.1%

□ 主要施策の満足度

第5期長期総合計画では、5つの行政分野に計17の施策の方向（主要施策）を定めており、この17の「施策の方向」それぞれについて、その満足度を評価していただいた結果は、以下のとおりとなります。

『満足している』の上位項目		『不満である』の上位項目	
3－4 伝統と先進の文化・芸術にあふれたまちづくり	61.9%	4－2 奥多摩ならではの地域産業の推進	57.2%
1－1 誰もが元気で健康に暮らせる地域づくり	61.1%	4－3 観光・産業づくりを推進する力の強化	53.4%
1－2 安心して子どもを産み育てる地域づくり	60.5%	5－1 官民協働による定住対策とまちづくり	50.0%
1－5 心のぬくもりと絆を持ち続けられる地域づくり	54.7%	2－2 だれもが住みたくなる心かようまちづくり	49.7%
3－3 誰もがスポーツ活動に参加するまちづくり	54.7%	5－2 成果を重視した行政改革の推進	47.3%

この17施策のうち、「重要である」と「やや重要である」を合わせた『重要である』の回答割合の高い項目は、以下のとおりとなります。

『重要である』の上位項目	
2－1 自然とともに歩むまちづくり	88.3%
1－1 誰もが元気で健康に暮らせる地域づくり	87.1%
1－3 高齢者が生きがいをもって暮らせる地域づくり	84.2%
4－2 奥多摩ならではの地域産業の推進	83.9%
5－3 身の丈にあった健全な財政運営の推進	82.0%
1－2 安心して子どもを産み育てる地域づくり	80.9%
1－4 障がい者が自立して生活できる地域づくり	80.7%

2－2 第5期長期総合計画の評価

第5期長期総合計画では、分野ごとの5テーマ「①健康・福祉」「②生活・環境」「③教育・文化」「④観光・産業」「⑤行財政」で方向性を示し、計画づくりを行いました。
まちづくり住民アンケートなどから各テーマの評価をまとめました。

① 健康・福祉

キーワード

健診、検診、医療、保健、子ども、子育て、高齢者、障がい者、未婚者支援など

住民評価では、対策の満足度・重要度が高く、他テーマとの比較でも高い傾向です。健康・福祉は住民の生活に欠かせないテーマであると考えられます。役場の評価であまり進んでいないとされた「入院・外来患者数」、「生涯安心して暮らせる制度の推進」、「ふれ愛サポート事業の新規登録者数」、「生きがいがあると思う方の割合」、「障がい者就労サポート事業の相談件数」など課題が残る対策もあります。
若手職員で検討した重要な課題は「生涯安心して暮らせる制度の推進」です。住民の健康づくりを目的とした予防医療である特定保健指導や健康づくり事業を実施していますが、効果はすぐに出ないため継続していく必要があります。

② 生活・環境

キーワード

保全・美化、ごみ、道路、公共交通、上下水道、コミュニティ、男女共同、防犯・防災など

住民評価では、自然の保全・美化、ごみ関係対策の満足度が高い傾向にあるものの、道路の維持補修、公共交通、男女共同参画、防災体制、防犯対策関係は満足度が低く、重要度が高い傾向です。役場の評価であまり進んでいないとされた「利用しやすい交通手段の充実」、「町が設置する委員会等への女性の参画割合」、「町総合防災訓練への参加率」、「防犯巡回指導への参加率」など課題が残る対策もあります。
若手職員で検討した重要な課題は、住民、役場の両面から課題として挙がっている「町の公共交通」です。町には、鉄道と路線バスがありますが、都心の公共交通と比較した場合、本数が少ない、交通手段が限られているなどの理由が考えられます。

③ 教育・文化

キーワード

生涯学習、青少年、多文化交流、スポーツ、郷土芸能、芸術、文化財など

住民評価では、対策の満足度が高い傾向です。役場の評価であまり進んでいないとされた「生涯学習の推進」、「奥多摩ならではの教育の実施」、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査小中合計点」、「郷土芸能ホームページへのアクセス件数」など課題が残る対策もあります。

若手職員で検討した重要な課題は「生涯学習」です。放課後こども教室、スポーツ活動の推進、語学教室、海外派遣、森林セラピーなど様々な事業を実施していますが、その事業が生涯学習だという認識があるのかが不明確であること、また、多様化しているため、きめ細かな周知が必要です。

④ 観光・産業

キーワード

アウトドア、宿泊、森林整備、農林水産物、有害鳥獣、起業、企業誘致、内水面漁業など

住民評価では、観光客数を基準とした対策の満足度が高い傾向にあるものの、森林整備、木質資源活用、農林水産物生産・出荷・販売、起業、グリーン・ツーリズム、情報発信関係は満足度が低く、重要度が高い傾向です。役場の評価でも住民評価と同様にあまり進んでいないとされた「木材買取制度による原木買取量」、「治助イモ種芋生産量」、「食肉用シカ肉処理量」、「テントショップの開設店舗数」、「グリーン・ツーリズム参加者数」、「観光協会ホームページアクセス件数」などの対策がありますが、計画策定時からの状況が変わり、基準として適していないことが考えられます。

若手職員で検討した重要な課題は「観光」と「産業」です。観光についてはオーバーツーリズムによる観光ごみなどの様々な問題への対策、産業については採用募集はあるものの、持続可能な産業（雇用）をどう生み出すか、自然や観光に限定しない考えが必要です。

⑤ 行財政

キーワード

少子化、定住化、空家活用、地籍、町営住宅、官民協働、役場組織、職員、広域連携、電子システム、広報など

住民評価では、財政関係対策の満足度・重要度が高い傾向にあるものの、定住化、官民協働、役場組織・職員、情報化関係は満足度が低い傾向です。役場の評価であまり進んでいないとされた「職員の対応等に満足している住民の割合」、「情報システムのコスト削減」などの対策もあります。

若手職員で検討した重要な課題は「定住化」です。住民評価は低い傾向であり、町の重点事業として実施しているため認知度や期待が高いことが考えられ、役場の評価が高い傾向は基準としている数値を生産年齢や年少の人口としているため、差があります。

2-3 みんなで描いたまちの未来 (住民参加ワークショップ)

初めての試みとして、多摩大学と連携し、役場の若手職員ワーキンググループと住民をはじめ関係人口など地域と多様に関わりのある方を対象としたワークショップを令和6年1月から2月にかけて古里・氷川・小河内の3地区で開催しました。参加者がまちの未来を話しあい、アイディアを出しながらまちの未来の姿をまとめました。

住民参加ワークショップで描いたまちの姿

- 森と水と共に生きる未来。その先にある奥多摩
- 最新のテクノロジーを活かした次世代につながるスローライフ
- あるもの探しのまちづくり
- 奥多摩シン・小河内 パスで行ける！鶴の湯温泉郷と小河内ウイスキー蒸留所
- 自然と人が健康に暮らせる町 ～つながりを大切に～
- 東京×山梨 人と経済をめぐらせ、いいとこどり！
- 3,000人の顔が見える里山
- 可能性しかない奥多摩～目指せちょうどいい田舎～
- 人と自然と動物とコミュニケーションできる町
- 活かす。
- 『終着駅 奥多摩駅』からはじまるアドベンチャー
- 生活しやすい町
- 森と人がつながる町づくり
- 奥多摩の自然⇒人の生き方（ゆとり・思いやりにつながる町奥多摩時間を大切に）
- 奥多摩らしさの発見・発信・伝承～心の時代は奥多摩らしさから～
- つながる・広がる奥多摩
- つながる奥多摩町・モバイルクリニックでつながる・移動販売でつながる・観光客とつながる・近所とつながる…他
- まるごと国立公園 クリーンおきたま

また、令和6年7月には第2弾となるワークショップを開催しました。若手職員ワーキンググループが第1弾のワークショップで出た様々な意見やキーワードを踏まえながら計画の素案を作成し、参加者が「活性化」「持続化」「効率化」の3つのグループに分かれ、素案をたたき台に、まちの未来について具体的な意見やアイディアを出し合いました。

若者だけでなく子どもも大人も誰もがチャレンジできるまちであってほしい、奥多摩の自然体験ができる環境は貴重、顔の見えるまちであることなど、奥多摩町らしさを踏まえながら、住民主体の取組など具体的なアイディアが出されました。これらの意見やアイディアを基に不足していた点などを、基本構想、基本計画に反映して策定しています。

各グループからは以下のような意見やアイディアが出されました。

各グループからの具体的なアイディアや意見



活性化グループ

「子育て支援の情報は特にこれから重要。今よりも積極的な情報提供や発信が必要。子どもに特化したホームページをつくることで、支援につなげていけるのでは」

「遊びの場・集いの場としては、子どもが遊ぶ場がないことや、小学生、中学生の集まる場所がないので、家に帰るまでの時間の場所づくりが大事」

「起業支援はあるが、移住して1年未満や年齢制限などがあるので、もっとだれでもいつでも起業のできる環境をつくってほしい」

「デジタル化を進めるべき場所とそうでない場所がある。どちらも積極的に取り組み、ハイブリッド化を目指した方が良い」



持続化グループ

「こどもたちに対しての送迎サービス、学びの場の充実。習い事などの情報を分かりやすくしてほしい。さらには町でせっかくやっている人材バンクなども分かりやすく見える化してほしい」

「町のホームページを分かりやすくしてほしい」

「SNSを活用してほしい」

「僻地に住んでいる人が限界を迎えた時にスムーズに平地へ行けるようなシステムづくり」

「どうしたら住める場所を増やしていけるか」

「災害時の連絡体制、通信手段の構築」

「こどもたちに今輝いている住民をつなぎたい」

「地域からはじまる奥多摩」



効率化グループ

「情報発信の改革では、チャットボットの活用を役場が情報を出して住民が質問をする関係ではなく、住民同士でやりとりができるプラットフォームの提供でもいいのではないか」

「回覧板の見守り機能は残しつつ、デジタルでの二重化発信により回す効率をあげたらどうか」

「外国人の増加に対応する多言語化」

「広域地域の奥多摩の中での3地域施設の維持とネットワーク化」

「ジョブローテーションをやめてスペシャリストづくりを！」

「コンシェルジュ的な人をつくり、1ヶ所にいながら各課対応できる仕組み」

「住民以外への情報発信の仕組みづくり」

素案に追加された新たな視点

素案をたたき台にして、それぞれの将来像について話し合い、**緑字部分**が追加で視点として出てきました。

活性化（素案）

将来像 1 生まれる・育む・挑むまち(づくり)

① 起業の支援

- 若者の挑戦を応援する
- 起業促進・新規事業開発支援
- 空き家を活用した施設の活用

・だれでも起業できる環境を整える
・創業支援の拡充

② 子育て推進

- 結婚・出産・子育ての支援
- 各種助成事業
- 子育て世帯包括支援センターの充実
- 子ども・子育て支援推進事業の継続
- 放課後こども教室（わさびーひろば）の浸透・発展

・情報発信の拡充
・子ども・子育てに特化したホームページの作成

③ 観光資源の開発

- 新たな観光スポットの開拓
- 新たな特産品の開発・開発支援

・観光スポットの充実
・特産品の充実

④ デジタル化の推進

- 各種申請の電子化
- WEB 診断の促進
- オンラインサポートの充実

・デジタル化・ハイブリッド化による
手続きの簡略化

⑤ 住民参加型事業の開拓・展開

- 学びの場をつくる
- 集いの場をつくる

・遊び場（公園）をつくる

将来像 2 作る・繋がる・広がるまち(づくり)

① 広域連携の推進

- 課・係を超えた連携で風通しの良い環境を整える
- 窓口のワンストップ化
- 他市町村との連携を図る

・業務の円滑化

② 幅広い世代が参加できる事業の充実・開拓

- 住民向け事業
- 観光客等関係人口も参加できる事業
- 獅子舞・お祭り等の郷土芸能

・イベントの充実
・郷土芸能の参加機会の充実

③ コミュニティの形成・活性化

- 自治会の運営・活性化
- 自主団体活動への支援

④ 多様性の尊重

- ジェンダーや障害に囚われない意識の改革
- 個性の尊重（一人一人を認める）
- 自殺・引きこもり対策

⑤ 住民サービスの充実

- 福祉サービスの充実
- バリアフリー化の推進
- 健康増進事業の推進による医療費抑制を図る
- 健康づくり推進事業の実施
- 食育推進事業の実施

・奥多摩の食材を使った学校給食

将来像 3 賑わう・満ちる・巡るまち(づくり)

① (駅前)? 活性化

- 地元商店と連携し駅前の活性化をはかる

② 観光資源の活用

- わさび・治助イモ・鹿肉等の特産物の活用
- 空き家・空き地を活用した観光駐車場の設置

・内水面漁業の充実

③ 定住促進

- 移住・定住対策
- 空き家バンクの促進
- 若者定住応援住宅・子育て応援住宅の推進
- 定住環境の整備

・移住者へローカルルールを教える

④ 公共施設・交通機関の充実・利活用

- 住民が公共交通を利用する機会を創出する(イベントの開催等)
- 新庁舎建設・維持・管理・発展
- 学校等公共施設の利活用促進

・交通弱者への支援

⑤ 暮らしの満足度向上

- 移動型店舗・移動販売車の導入促進
- 観光ゴミステーションの設置
- 生涯学習の維持・発展
- 憩いの場の充実・発展

持続化(素案)

将来像 1 サステナブルなまちづくり

① 資源を活かす・大切にするまちづくり

天然資源(土地・水・埋蔵鉱物・森林・水産生物、また観光資源としての風景など)

の維持・管理及び活用する施策

- 森林再生事業・休耕地活用・
現存の建物資源の維持・管理もしくは別活用の検討
- 古民家の活用・不要家屋の解体
- 環境美化に関する普及啓発→危険空き家の危険性に関する啓発

・地域の水資源(皆の水道)の活用
・地域の木質資源の活用

ごみの削減など、環境に配慮した持続可能な社会を目指した施策

- 家庭ごみの削減に関する普及啓発
- 観光ごみの対策

② 子供の成長を見守るまちづくり

教育環境の維持

- 学校施設の改修、外壁整備、木質化、維持補修工事、
教材備品や児童生徒用のパソコンの整備
- 校務用のコンピュータの整備、部活動
- 放課後クラブの在り方検討(送迎、他校連携関係)
- 奥多摩ならではの教育の実施の維持
- 保育園から中学校までの一貫的な教育推進
- 水源地である奥多摩町の自然や林業、山葵田、
狩猟などの奥多摩の産業に触れる体験学習の充実

・子どもたちの送迎サービスの実施
・学校以外の学びの場をつくる
・町人材バンクの情報発信
・役場のホームページの充実

教職員の質の維持

- 町内視察研修、西多摩地域での合同研修、校内研修等各種研修
- 教員異動の公募制を活用した意欲ある教員の確保
- 専科の教員の配置、習熟度別少人数加配による教員の確保
- 学校における教育活動の奨励、教材教育指導書の充実

地域や保護者の負担軽減、情報発信

- 就学上の各種支援の継続と充実、保護者負担の低減
- 保護者への奥多摩教育の情報発信と意識改革の促進、
「奥多摩の教育」「奥多摩町の教育」発行
- 奥多摩教育の広域的なPR活動の実施、子育て世代への奥多摩教育の
魅力発信、町外に向けての魅力発信

児童・生徒数の維持

- 奥多摩の教育の魅力を発信し、子育て世代の家庭の定住を促す

③ 誰もが学び続けるまちづくり

健康、食育・健康指導・検診の継続、生涯学習の維持

- 世代を超えた学習の場の整備
- 住民協働の教育
- 人材交流の推進
- 体力向上の推進
- 文化・芸術活動の展開
- 郷土芸能・文化財の継承

- ・ SNSなどを活用した情報発信
- ・ 誰もが先生になり知識をお裾分けする

将来像 2 レジリエンスなまちづくり

① 交通インフラの整備されたまちづくり

- 町道・林道の維持補修
- 災害時緊急車両等が安全に通行できるよう道路整備及び耐震化
- 防犯灯の整備
- ひとにやさしい道づくり事業の事業内容の拡大
- 福祉モノレールの維持管理
- レッドゾーン解消対策

- ・ 自動運転交通の確保
- ・ 町民同士での車の乗り合い
- ・ 地域の危険場所の学習

② 公共インフラの整備されたまちづくり

- 災害時における避難所・公共施設の整備
- 町所有の建築物の改修、維持管理
- 安全な水道水を安定的に供給が可能となるよう、
地震や台風などの自然災害時の応援体制や広域連携の推進
- 公共下水道の維持管理及び耐震化

- ・ 災害時の応援体制の整備
- ・ 生活館の活用

将来像 3 セーフティーなまちづくり

① 災害に負けないまちづくり

防災意識の向上・防災力強化を目指す施策

- 災害時近隣市町村、官民連携強化
- 災害時情報連絡体制強化（防災無線・インターネット）
- 消防団加入促進・待遇強化、消防団指揮機材の充実

- ・ 地域での防災学習
- ・ 安全な水道水の供給
- ・ 町民自身での災害キャンプの実体験

② 犯罪・事故から人を守るまちづくり

防犯力意識向上・防犯力強化を目指す施策

- 交通安全普及啓発
- 交通安全教室の充実
- SNS・インターネットトラブル情報モラル知識の普及啓発

- ・ コミュニティ（自治体）への参加促進
- ・ SNSを活用した情報発信

③ 安全・安心して日常生活を過ごせるまちづくり

人と人とのつながりや助け合いを大切にし、 子育て世代や障害者などをはじめ、全ての人が安全・安心して 生活を過ごせるまちを目指す施策

- 地域医療の充実
- 地域見守りパトロールの充実
- ICTを活用した子供から高齢者見守りの充実
- 生活困窮者への経済的支援の拡充
- 障がい者地域生活支援事業等の充実
- 移動販売の拡充
- 氷川地内に屋内で子供が遊べる施設の設置
- チームオレンジによる認知症の人や家族の人に対する支援の継続

- ・ 子どもが安全に遊べる屋内の遊び場をつくる
- ・ 自治体の防災体制の整備

効率化（素案）

将来像 1 スマートなまちづくり

くらしの最適化 分かりやすい、伝えやすいまちへ

① 効果的な組織運用、人材配置・育成

- 基礎研修の充実化
※適正及び特性判断のため、より長期的に幅広く実施
- 人事考課時に適正判断テスト等実施
- 事務手順等の明確化・マニュアル化による
人材育成の 画一化

- ・ 習熟度の均一化
- ・ 適材適所の配置
- ・ ジョブローテーションをやめ
長期／短期部署を選択
- ・ スペシャリストの育成

② 建物の取捨選択

- 施設活用の見直し
- 施設の集約化（古里、氷川、小河内の3箇所は維持）
- 施設機能の複合化
- 空き家除去支援
- 空き家等活用促進事業交付金の活用による空き家の解体
※土地の利活用などのため

- ・ 施設、学校をオンラインでつなぎ集まりや事業を実施

③ 情報発信の改革

- チャットボットの活用など

- ・ デジタル版の回覧板などを活用した二元化発信
- ・ 多言語化

将来像 2 フラットなまちづくり

同じ目線でみんなと育むまち

① デジタル化などによる窓口業務の効率化の検討

- 窓口のワンストップ化による住民・職員双方の負担軽減
- 端末利用による書き損じや記入漏れ等のミス防止

- ・ 窓口業務のデジタル化
- ・ マイナンバーの活用

② 業務の遠隔化を目指す

- （継続的な訪問が必要な業務・事業の場合に）対象者へタブレット等の貸与などを通じて、必要時以外の訪問はオンラインによるミーティングを通じて実施し、双方の負担軽減を図り、より多くの対象者とコミュニケーションをとることを検討する
- 職員の遠隔業務の充実化により、働き方の多様化を目指す

- ・ 面談のオンライン化

③ 業務量の平準化

- どの職員も平等な情報発信を可能とするマニュアル体制の構築
- 業務内容、業務量の分析を通じた組織体制の見直し

- ・ 業務内容に応じた長期／短期担当者の配置

④ どんな人でも同様のサービスを受けられる体制づくりを目指す

- 総合窓口（コンシェルジュ）の創設
- 申請窓口の単一化
- 標示の明確化（ピクトグラム、動線の視覚化）

- ・ コンシェルジュを配置する
- ・ 多言語化

将来像 3 リンク／シェアするまちづくり

垣根を越えてともに分かち合えるまち

① 組織内の知識の共有

- 事務手順や根拠法令等の明確化、共有を通じて、業務の属人化や担当不在による業務の停滞の防止につなげる。

② 他自治体との連携強化

- 西多摩地域広域行政圏など既存の会議体との連携継続
- 各自治体担当者同士の連絡体制や手法を簡便化し、相互に情報共有を適宜行えるようにすることで、業務への理解や困難ケースへの理解を深める。

・デジタルを活用した連携

③ 町の魅力をシェアする

- 住民、町に縁のある方達との魅力を共有し、みんなで発信する。

・インバウンドへの魅力発信

④ 住民の意見をシェアする

- 住民の意見を可視化し、困りごとやわからないことを共有する。

・情報共有プラットフォームをつくる

2-4 意見募集・パブリックコメント

住民等からの意見を広く求めるため、第5期長期総合計画のまとめや第6期奥多摩町長期総合計画基本構想（案）および基本計画（案）をそれぞれ公表し意見募集を行いました。

① 第6期奥多摩町長期総合計画の策定に係る意見募集

期 間：令和6年3月5日から3月25日

提出件数：17件（住民9件、関係人口8件）

② 基本構想（案）に対するパブリックコメント

期 間：令和6年10月18日から10月31日

提出件数：3件（住民3件）

③ 基本計画（案）に対するパブリックコメント

期 間：令和6年12月3日から12月13日

提出件数：9件（住民8件、関係人口1件）

基本構想

3

3 基本構想

3-1 まちの将来像

奥多摩町は自然豊かで、人口規模は約4,500人と一人ひとりの顔が見えるまちです。奥多摩らしさを活かしながら、「一人ひとり」を大切に、想いをもってまちづくりを進めていきます。

自然の中で
わたしが 暮らし つながり
挑戦できる おくたま

将来像に込めた思い

住民参加ワークショップでいただいた様々な思いを含めて、目まぐるしく変化する時代でも変わることのないであろう、みなさんが大切にしている想いを込めました。

- 私たちは奥多摩の自然の中で暮らしており、その奥多摩が暮らしやすい町になることで人とのつながりが生まれ、挑戦できる土壌ができていくと考えています。
- 本計画は町としてだけでなく、住民みなさん一人ひとりが主役であり、実現に向けて一緒に目指していくものであることから、自分事と捉えやすいよう、「わたしが」という主語にしています。
- 山や川、湖、森、環境、生態系、それらのつながりも含めてすべての意味を込め「自然」という表現にしています。

3-2 私たちが大事にする姿勢

以下の姿勢を大切にし、奥多摩町の目指す将来像を実現するため「わたし」たち一人ひとりが取り組んでいきます。

「豊かな自然」を大切にします

全域が秩父多摩甲斐国立公園という恵まれた環境であることに向き合い、自然と共生し、観光資源を大切にできるまち

「わたし」＝「一人ひとり」を大切にします

年齢や性別、国籍などにとらわれず、一人ひとりの個性が光るまち

「くらしやすさ」を大切にします

今あるものに魅力と安らぎを感じ、暮らしてみたい、暮らし続けたいと思えるまち

「町内外のつながり」を大切にします

奥多摩ならではの顔が見えるつながりと、奥多摩に関わる多様な人との絆を大切にできるまち

「挑戦」と「学び」を大切にします

歴史あるものから学びながら新しい物事に挑戦できるまち

「大事にする姿勢」の基になったキーワード

住民参加ワークショップなどから整理されたキーワードを基に大事にする姿勢をまとめました。

「豊かな自然」	全域が秩父多摩甲斐国立公園、観光資源の維持・活用、自然との共生（災害に負けない）
「わたし」＝「一人ひとり」	年齢、性別、国籍、個性を大切にする、多世代共生
「くらしやすさ」	ないものさがしではなくあるものさがし、奥多摩ならではのくらしやすさ、移住定住促進、子育て推進、福祉サービスの継続と充実、誰もが安心できる、生涯現役
「町内外のつながり」	人と人とのつながり、住民同士のつながり、他自治体や関係人口とのつながり、官民協創、多世代交流
「挑戦」と「学び」	新しい物事への「挑戦」と歴史あるものからの「学び」、生涯学習、歴史と文化、新たな発想、将来への希望が持てるまち

3-3 未来をつくる3つのコンセプト

本計画では、分野での整理ではなく、横断的な視点で「活性化」「持続化」「効率化」の3つのコンセプトから計画をまとめています。

活性化

未来をつくるためには、積極的に新たなものを創造すること、そして、何よりそのために失敗を恐れず挑戦することが重要です。

持続化

まちづくりには過去や歴史からの連続性も必要で、今あるものを大事に守りながら、新たな光をあてることで、継続することも大事です。

効率化

限りある資源を活用し、新たなことに挑戦するためには、時には勇気をもってやめたり、縮小したりすることも重要で、整理・統合することで無駄をはぶくことにもつながります。

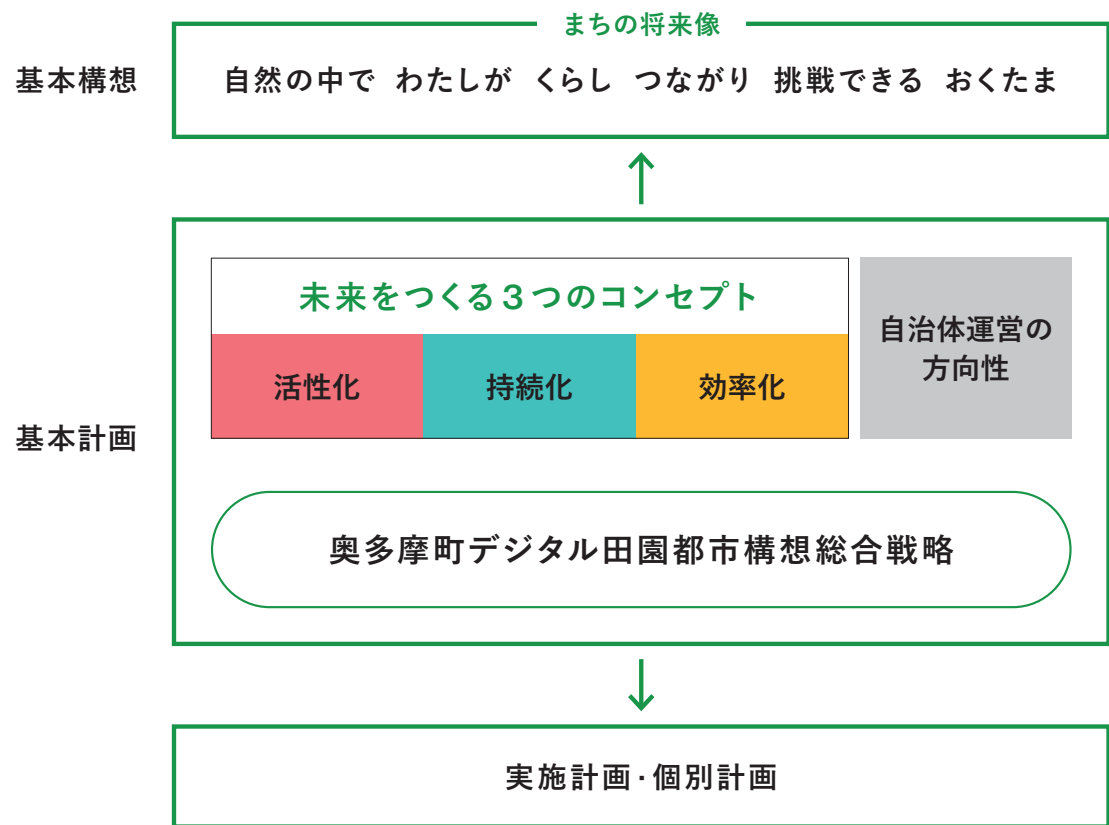
基本計画

4

4 基本計画

4-1 基本計画と個別計画の関係

長期総合計画は、まちの未来の設計図となる最上位計画です。それぞれの分野で策定する個別計画は、基本構想に掲げる将来像の実現のため、基本計画で示す方向性に基づき推進していくものとなります。



町の主な個別計画

- | | | |
|-----------------|---------------|----------------|
| ○ 地域保健福祉計画 | ○ 庁舎建設基本計画 | ○ 空家等対策計画 |
| ○ 地域高齢者支援計画 | ○ 地域防災計画 | ○ 空き家対策総合実施計画 |
| ○ こども計画 | ○ 国土強靱化地域計画 | ○ 若者定住促進計画 |
| ○ 障害福祉計画 | ○ 地域公共交通計画 | ○ 公営住宅等長寿命化計画 |
| ○ いのち支える自殺対策計画 | ○ 過疎地域持続的発展計画 | ○ 橋梁長寿命化修繕計画 |
| ○ 健康増進計画、食育推進計画 | ○ 森林整備計画 | ○ 下水道事業計画 |
| ○ 環境基本計画 | ○ 生涯学習推進計画 | ○ 内水面漁業振興計画 |
| ○ 一般廃棄物処理基本計画 | ○ 学校施設長寿命化計画 | ○ 奥多摩病院経営強化プラン |
| ○ 収集分別計画 | ○ 公共施設等総合管理計画 | 等 |

奥多摩町デジタル田園都市構想総合戦略

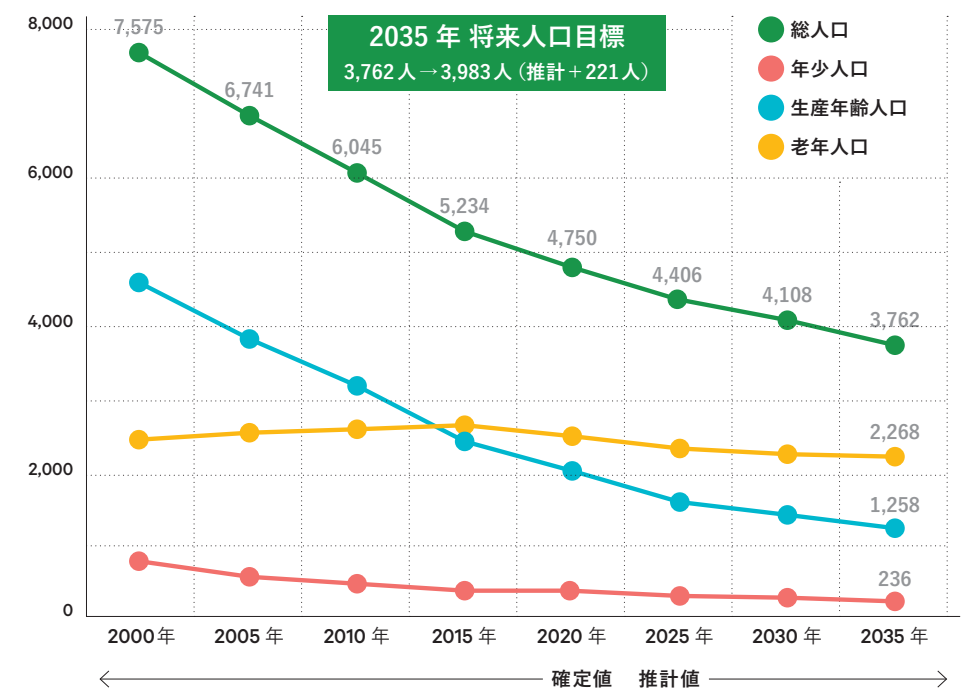
町では、令和2年にまち・ひと・しごと創生法第10条に基づく地方版総合戦略として「奥多摩町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。令和4年に国が総合戦略を「デジタル田園都市国家構想総合戦略」と改訂したことから、人口減少やデジタル化などの課題に柔軟に対応していくため「奥多摩町デジタル田園都市構想総合戦略」を第6期長期総合計画に包含し、基本計画を総合戦略の基本的方向として位置づけます。

また、数値指標・重要業績評価指標（KPI）については、目まぐるしく変化する情勢に合わせ柔軟に対応できるよう、固定化した指標を設定するのではなく、より職員の主体性を高めるため、別に設定を行います。また、形骸化を防ぐため、外部有識者を含む評価委員会を立ち上げ、現状や進捗状況等を確認・分析できるデータに基づき評価を行っていきます。

4-2 人口推計と目標設定

本計画の計画終了年度は2034年度（令和16年度）です。人口推計では2035年には総人口3,762人になると推計されており、老年人口は約60%と高齢化もさらに進む予想です。町の将来人口の目標設定は、第2期総合戦略の将来人口の目標設定条件を引き継ぎ、2035年の総人口を3,983人と設定し、現状の人口減少の改善を目指したまちづくりを進めていきます。なお、2025年の総人口推計値は4,406人ですが、2025年1月1日現在、住民基本台帳上の総人口は4,492人と推計を約90人上回っています。

人口推計



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

4-3 施策の体系

基本計画では、未来をつくる3つのコンセプトに基づく具体的なまちの将来像と、それに連なる形で施策の方向性及び取組み例をまとめています。

未来をつくる3つのコンセプト	活性化 (創造する・挑戦する)	将来像 1 生まれる・育む・挑むまちづくり 将来像 2 創る・繋がる・広がるまちづくり 将来像 3 賑わう・満ちる・巡るまちづくり
	持続化 (続ける・守る・再生する)	将来像 1 サステナブルなまちづくり 将来像 2 レジリエンスなまちづくり 将来像 3 セーフティーなまちづくり
	効率化 (無駄をはぶく・まとめる・やめる)	将来像 1 スマートなまちづくり 将来像 2 フラットなまちづくり 将来像 3 リンク／シェアするまちづくり
	自治体運営の方向性 (第6次行政改革大綱)	① 新たな時代に順応した行政サービスの提供 ② 時代の変化に適応した組織運営と人材育成 ③ 将来を見据えた持続可能な財政運営の推進

活性化（創造する・挑戦する）

将来像 1 生まれる・育む・挑むまちづくり

安心して妊娠・出産・子育てができ、将来を担うこどもたちが自然豊かな環境の中でのびのびと健康に育つことができるまちづくりを進めていきます。様々な機会を活かし、誰もが挑戦できる環境を整えます。起業や創業支援、町の観光資源の開発なども進めていきます。デジタル化を進めることで、人口減少や地域特性などに対応できるよう病院のウェブ診療や各種申し込みなどを遠隔で行える環境の整備を検討します。また、農業・林業・観光等を含んだ産業振興計画の策定を検討し、奥多摩町ならではの課を横断した一体的なまちづくりを進めていきます。

① 子育て推進

妊娠期から子育て期の一体的な支援を進めていくとともに、安心して子育てができるよう情報発信の充実を図っていきます。また、学校が終わった後、こどもたちがのびのびと色々なことを学ぶ場として、放課後こども教室を開催し、安心して預けることができる場を充実させていきます。

- 取組み例
- 妊娠期から子育て期の一体的な支援

○ 情報発信の充実（子ども・子育てに特化したホームページの作成など）

○ 各種助成事業の充実

○ 放課後こども教室（わさびーひろば）の充実 等

PICK UP!

放課後こども教室（わさびーひろば）

こどもたちの自主的な参加と過ごし方、また地域の皆さんのご協力のもと、学校の空き教室や校庭等を放課後に利用し、安心してこどもたちが過ごせる、例えるなら「大人による見守りがある公園」のような場所を目指しています。

② 起業の支援

複業やテレワーク、二地域居住の推進など様々な働き方や暮らし方ができるようになってきました。時代の流れに対応し、若者の挑戦を積極的に応援していくとともに、若者だけでなく誰もが起業など新しいことに挑戦できる環境・体制を整えていきます。また、町内にある空き家などの活用を検討し、地域での拠点づくりや起業、起業支援の場としても活用できるよう進めていきます。

- 取組み例**
- 誰でも起業できる環境の整備
 - 起業促進・新規事業支援
 - 創業支援の推進
 - 拠点としての空き家活用 等

③ 観光資源の開発

自然豊かな環境とともに、見落としがちな地域の魅力を発掘し、観光スポットとして充実させていきます。また、特産品の開発や支援の充実、インバウンドを想定した観光資源の開発と環境の整備も進めていきます。

- 取組み例**
- 新たな観光スポットの発掘
 - 新たな特産品の開発・開発支援の充実
 - インバウンドを想定した観光資源の開発と環境の整備 等

PICK UP!

「沿線まるごとホテル」とクラフトビールメーカー〈VERTERE〉(パテレ)駅と周辺の集落に点在する地域資源を活用し、沿線全体を一つのホテルに見立てた「沿線まるごとホテル」プロジェクトでは東京アドベンチャーライン（JR 青梅線（青梅駅～奥多摩駅間））の駅ごとの物語をつくりこみ、「点から線へ、線から面へ」と青梅・奥多摩地域の魅力を広げています。

「VERTERE 新工場」開業とともに、最寄り駅の奥多摩駅と新工場をつなぐイベントや沿線まるごとホテルでの VERTERE ビールの提供等、更なる地域活性化が期待されます。

④ デジタル化の推進

人口減少や高齢化、地域格差も考慮し、デジタル化を進めることで格差を補い、時代に合わせて対応していきます。様々な申請を役場などに出向いて行うことは負担が多く、デジタル化により選択肢を増やし、柔軟に対応できるようにしていきます。また、医師不足や診療科目の不足などもあり、ウェブ診療など遠隔であっても通常と変わらない診察が受けられるなど、広域的な連携も活用し、安心して暮らしていける環境づくりを進めていきます。

- 取組み例**
- 各種申請手続きも含めたデジタル化の推進
 - ウェブ診療の検討
 - オンラインサポートの推進 等

⑤ 住民参加型事業の開拓・展開

奥多摩町は人口が約4,500人と、一人ひとりの顔が見える町です。住民の皆さんが、学びや遊ぶことのできる場づくりを進めていきます。また、様々な人が集うことでアイデアが生まれ、自発的な活動が展開していくと考えます。学び、遊び、集い、一人ひとりが主役となって参加できるよう事業を検討していきます。

- 取組み例**
- 学びの場の提供
 - 多様な人々と交流できる機会の充実 等

PICK UP!

長寿ふれあい食堂推進事業

地域の高齢者の食事会を通じて交流の場を確保することで、高齢者の交流機会の増加、心身の健康増進、多世代交流を促進することを目的としています。町では、各自治会の生活館などで地域の方々と一緒にカレーを作り、食事会を行っています。

PICK UP!

奥多摩 AUBA (アウバ)

奥多摩町と多摩大学による包括連携協定に基づいて、経営情報学部の松本ゼミと町民有志が共同で運営する多機能型地域活性化拠点。奥多摩駅至近の町所有の空き店舗を活用し、町民や観光客、交流人口など、様々なものがあう「会う・合う・逢う・遇う」場所を創出することによって、地域の「ハブ」となる施設を目指しています。大学との連携により、若者の新しい発想や視点での取り組みが期待されます。

将来像 2 創る・繋がる・広がるまちづくり

人口減少や高齢化により人材も不足し、今までのやり方では対応できなくなることが想定されます。庁内での連携をより密にし、他自治体と広く連携し進めていくことが必要です。また、それらに対応していくためには、行政だけでは困難です。住民サービスの充実を図るとともに、多様性を尊重しながら、一人ひとりが主役となって、住民だけでなく観光客や関係人口も参加できる事業を検討していきます。

① 広域連携の推進（庁内連携、他自治体との連携）

人材不足が予想される中、課題やノウハウ、情報を横断的に共有するなど、広く連携することで、円滑な業務推進を図ります。また、横断的な庁内連携を軸として各業務にあたることができるよう、連携しやすい雰囲気、体制づくりを進めていきます。他自治体でも抱える共通課題も多いため、課題やノウハウなどの情報だけでなく、事業の共同実施やシステムの共有なども想定しながら連携を図っていきます。

- 取組み例
- 円滑な業務推進
 - 横断的な庁内連携の推進と連携しやすい環境づくり
 - 窓口のワンストップ化の推進
 - 他自治体との連携 等

② 幅広い世代が参加できる事業の充実・開拓

住民一人ひとりが主体的になって参加できる事業を推進するとともに、観光客や関係人口も含めて、幅広い世代、多様な人が参加できる事業を検討していきます。また、獅子舞やお祭り等地域の郷土芸能を次世代に引き継いでいくため、担い手として多様な人が関わっていけるよう検討していきます。

- 取組み例
- 住民が主体的に参加できる事業の充実
 - 観光客や関係人口も参加できる事業の開拓
 - 獅子舞・お祭り等の郷土芸能の継承 等

③ コミュニティの形成・活性化

奥多摩町には多くの自治会があります。自治会を存続していくために、運営や運用方法などを改善し、負担軽減を検討しながらも、コミュニティの核となる人とのつながり、交流の部分に重点を置きながら、活性化を目指します。団体活動の情報発信など積極的に支援し、一人ひとりが主役となって輝ける場、活躍できる場を広げていきます。

- 取組み例
- 自治会の活性化
 - 団体活動への支援 等

広域連携

2024年6月20日、第12回ジャパンアウトドアリーダーズカンファレンス特別シンポジウム“西多摩から考える「持続可能なアウトドア」の未来～産官学民で向き合う自然・まち・観光の調和～”が開催され、西多摩の4市町村（青梅市、あきる野市、奥多摩町、檜原村）の市町村長が登壇、それぞれの自治体でどのような自然・まち・観光を調和させる取り組みをしているかを紹介し、その課題や可能性についてパネルディスカッションを行いました。観光振興と自然保全を両立し持続可能な地域を目指すためには、ひとつの自治体では不可能です。自治体の広域連携は、予算の配分など調整が難しいものですが、これからは危機感や課題を共有できる地域間で、市町村長自ら連携の機運を高め、具体的な取り組みに落とし込んでいく必要があります。

他自治体から学ぶまちづくりのヒント①

妊婦・赤ちゃんのいる家庭向け情報発信

「ここみて港北」（横浜市港北区での取組み）

いつもそばにあるスマホに、震災や災害、緊急時に使える情報を届け、妊婦さんやそのご家族、そして赤ちゃんの生命を守りたい。震災や災害が起きたら病院や区役所は不眠不休での対応にあたり、サポートや情報提供をしたくてもできないこともある。それなら地域でできることをしようと「ここみて港北」が立ち上がりました。普段は「妊娠、出産、産後、子育て」の情報集約を、災害時などにはその時のニーズに合わせて情報を発信しています。

④ 多様性の尊重

人はそれぞれ個性を持っており、十人十色です。一人ひとりが異なることを理解し、お互いの考えや存在を尊重して、多様な考え方、あり方を認め合う、一人ひとりが大切にされるまち、地域共生社会の実現に向けて取り組んでいきます。

- 取組み例
- 個性の尊重
 - 男女共同参画や多文化共生の推進
 - 外国籍、外国にルーツを持つ方への対応の充実
 - ジェンダーや障害に捉われない意識の改革と対応の充実
 - 自殺・引きこもり対策 等

⑤ 住民サービスの充実

少子高齢化に伴い、福祉に掛かる予算は一層大きくなると考えられます。食を含めた健康を軸として、元気で長寿を目指し、医療費の削減にも努めます。また、施設等のユニバーサルデザインを検討していきます。

- 取組み例
- 福祉サービスの充実
 - バリアフリー化の推進
 - 健康増進事業の推進
 - 食育推進事業の実施 等

地域おこし協力隊

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。“よそ者”だからこそ見える奥多摩町の強みや魅力、こうなればもっといいかも…というアイデアや新たな仕組みなど、よそ者の視点で可能性を見出し、柔軟な視点で奥多摩の未来と一緒に担っていく仲間です。

PICK UP!

まちの特産品

奥多摩町には、奥多摩わさび、奥多摩やまめ、治助イモをはじめとした豊かな自然の恵みがあります。近年では、クラフトビールなど奥多摩ブランドとして魅力ある特産品が生まれています。

将来像 3 賑わう・満ちる・巡るまちづくり

奥多摩町は街道沿いと駅周辺に商店が並んでいます。それらの歴史や豊かな自然など奥多摩町らしさを活かしながら、まちの活性化、観光資源の活用を図ります。公共交通の利用促進や移動が困難な方へ支援を検討していきます。関係人口の増加と併せ、移住・定住を推進していきます。買い物の場として、また、コミュニケーションの場として、移動販売などの拡充を検討します。観光ごみへの対応として、観光ごみステーションを設置するなど、観光による地域への負荷軽減についても検討します。また、地域おこし協力隊や集落支援員の積極的な活用を進め、まちの活性化を図ります。

① まちの活性化

地域産業の活性化を含め、地元商店と連携したにぎわいづくりを進めます。町にはアートやクリエイティブな活動があり、それらに触れる機会やイベントなど、まちの活性化につなげていきます。郊外へのオフィス移転、テレワークや二拠点での生活などライフスタイルの転換も図られています。それらの時代の背景等も踏まえ、豊かな自然、受け継がれてきた歴史、魅力的な活動を活かしながらまちの活性化を図っていきます。

- 取組み例
- 地元商店との連携
 - 駅前を中心としたにぎわいづくり
 - アートやクリエイティブな活動との連携
 - 地域おこし協力隊や集落支援員の積極的な活用 等

② 観光資源の活用

奥多摩町の豊かな自然で育まれる、わさびや治助イモという奥多摩ならではの野菜、鹿肉等のジビエなどがあります。特産物を観光資源として持続的に生産、活用できるよう環境整備や体制づくりを進めていきます。また、車利用の観光客等に対応するため、空き家・空き地を活用した観光駐車場の設置も検討していきます。奥多摩町には豊かな自然における様々な観光資源があり、内水面漁業や森林セラピー、トレッキング、カヌーなど自然を活かしたアクティビティなどを推進していきます。

- 取組み例
- わさび・治助イモ・鹿肉等の特産物の活用
 - 空き家・空き地を活用した観光駐車場の設置
 - 内水面漁業や自然系アクティビティ等の推進 等

③ 移住・定住促進

関係人口の増加と併せ、移住・定住を促進していきます。移住・定住を進めるためには、安心して移住できるような様々な支援、定住環境の整備が重要です。特に若者や子育て世帯への支援を充実させるとともに、空き家バンクなどの活用も進めていきます。

- 取組み例**
- 移住・定住対策の促進
 - 空き家バンクの活用
 - 若者定住応援住宅・子育て応援住宅の整備
 - 分譲地の整備 等

④ 公共施設、交通機関の充実・利活用

高齢化により免許証の自主返納が増えていくと考えられます。移動が困難な方への支援を検討するとともに、公共交通の利用を促進していきます。また、新庁舎の建設にあたっては、誰もが集える場として利用していくことを検討します。公共施設においても、既存の利用だけでなく様々な活用方法について検討していきます。

- 取組み例**
- 公共交通を利用する機会の促進
 - 移動が困難な方への支援
 - 公共施設の活用方法の検討 等

⑤ 暮らしの満足度向上

買い物場として、また、地域におけるコミュニケーションの場として、移動販売等の拡充を検討していきます。観光ごみへの対応として、観光ごみステーションを設置するなど、観光による地域への負荷軽減についても検討します。地域で生き生きと暮らしていくために、生涯学習や憩いの場を充実させ、地域とつながりながら生活していける機会を増やします。

- 取組み例**
- 移動販売等の拡充検討
 - 観光ごみステーションの設置検討
 - 生涯学習の推進
 - 憩いの場の充実 等

持続化（続ける・守る・再生する）

将来像 1 サステナブルなまちづくり

奥多摩町の豊かな自然・資源にも限りがあります。これらの資源を維持・保全しながら、ごみの分別や削減等の環境負荷を減らす取り組みを行うなど、豊かな自然環境を次代へ引き継いでいきます。次代を担う子どもたちが安心して地域で育つことができるよう見守りながら、誰もが学び続けることができるよう取り組みを検討していきます。資源も人も未来へつないでいけるようサステナブルなまちづくりを進めていきます。

サステナブルとは

「持続可能な」「維持できる」という意味で、環境や社会、経済などのあらゆる場面において、将来にわたって持続可能な状態を保つことを示します。

① 資源を活かす・大切にすまちづくり

奥多摩町には山や川などの天然資源が豊富にあります。これらの限りある資源を大切に維持管理しながら活用を進めていきます。

- 取組み例**
- 森林再生事業・木質資源の活用
 - 空き家の活用・危険空き家対策
 - 獣害対策や資源としての活用の検討
 - 家庭ごみの削減に関する普及啓発
 - 観光ごみの対策
 - 休耕地活用の検討 等

② 子どもの成長を見守るまちづくり

こどもたちが安心して生活できるような家庭・地域・学校が連携した体制づくりを進めていきます。奥多摩町は水源地であり、豊かな自然や林業、漁業、山葵栽培などが盛んな地域です。町の産業に触れる体験学習の充実を図るなど、環境を活かした奥多摩町ならではの教育により、のびのびとした発想豊かなこどもたちを育てていきます。また、それらの教育を担う人材の役割は重要です。研修などを通じて幅広い知識を得ることで、こどもたちが学び成長できる体制づくりを進めていきます。大人たちが先生となって地域で学ぶ場など、学校以外での学びの場の検討を進めていきます。

- 取組み例**
- 子育て環境の充実
 - 奥多摩町ならではの体験学習など特色を活かした学校教育の充実
 - 家庭、地域と学校との連携・協働
 - 学びを支える学校環境の整備
 - 町内外への効果的な情報発信の検討 等

③ 誰もが学び続けるまちづくり

健康であるためには、食育や健康維持についての知識や理解を深めることが大切です。健康で元気に学び続けることができるよう、福祉会館の機能訓練室の利用促進や高齢者の「にっ古里」への参加など体力の向上を図ります。世代を超えて参加できる学習の場や奥多摩の環境を生かした体験学習の場づくりを進めていきます。また、地域で受け継いできた郷土芸能・文化財など郷土愛の醸成を図ります。

- 取組み例**
- 健康増進・健康指導・健診の充実
 - 食育の推進 ○ 生涯学習の充実
 - 世代を超えた学習の場や体験学習の整備
 - 社会教育施設の利用促進 ○ 文化・芸術活動の推進 等

PICK UP!

シニア筋トレルーム「にっ古里」

令和4年4月に古里駅前にオープンしたシニア向け筋力トレーニング施設です。日常動作に必要な「立つ」「座る」「歩く」などの筋肉を維持・強化することで転倒防止や移動能力の向上が期待され、将来的なフレイル（虚弱）予防、介護予防につながります。1回でおしまいの体操教室ではなく、継続して利用していただくことが最大の目標です。

将来像 2 レジリエンスなまちづくり

奥多摩町は、急峻な地形に集落が点在しており、複数からのアクセスが難しい地域もあり、土砂崩れなどで道路等が寸断されると災害時に孤立する危険性があります。そのため、災害のリスクを少しでも減らし、災害に備えていくためにインフラの整備も重要です。高齢になって車の運転ができなくなっても、他の交通手段があることで安心して暮らしていくことができます。交通インフラ及び公共インフラの整備を進め、災害時や時代の変化等に対応できるようレジリエンスなまちづくりを進めます。

レジリエンスとは

一般的に、様々な危機からの「回復力、復元力、しなやかな強さ」を意味するとともに、ダメージを受けても、粘り強く以前よりもより良く立ち直る状態を表します。例えば、「自然環境がダメージを受けても、元に戻る力」や、身近な言葉では「困難に立ち向かう力」「雨降って地固まる」という言葉が当てはまります。

① 交通インフラの整備されたまちづくり

災害のリスクを少しでも減らすため、道路の維持補修や緊急車両等が通行できる道路整備等が重要です。また、人口減少、高齢化等による交通への様々なニーズや変化にも対応できるよう自動運転や乗り合いの検討も進めていきます。

- 取組み例**
- 町道・林道の維持補修
 - 災害時緊急車両等が安全に通行できるよう道路整備及び耐震化
 - 防犯灯の整備
 - 自動運転交通の検討
 - 町民同士で乗り合いの検討 等

② 公共インフラの整備されたまちづくり

災害時に安全を確保するため、避難所となる公共施設の整備や、食料・水などの備蓄を進めます。また、避難所での熱中症対策の必要性や災害が重なることなども想定されるため、それらを踏まえた施設等の耐震化や災害時の連携体制の確立を進めます。

- 取組み例**
- 災害時に避難所となる公共施設の整備
 - 町有施設等の改修、維持管理
 - 地震や台風などの自然災害時の応援体制や広域連携の推進
 - 公共下水道の維持管理及び耐震化 等

将来像 3 セーフティーなまちづくり

今後、災害が多くなると予想される中で、インフラの整備だけでなくソフト面での備えが大切であるため、防災意識の向上と防災力強化を図ります。また、安全に暮らしていくために、犯罪や事故に巻き込まれないよう防犯意識の向上と防犯力強化を目指し、普及啓発を図ります。

① 災害に負けないまちづくり

一人ひとりが災害への意識を持って、地域で危険箇所を把握したり、防災訓練や備蓄の確保、連絡体制を整え、災害を想定した体験や訓練などを事前に行っておくことが、いざという時の円滑な対応につながると考えます。火災や災害時など有事の際に大きな役割を担う消防団についても、活動内容や処遇改善を検討し、有事の際に活躍できるよう体制づくりを進めていきます。

- 取組み例
- 災害時における近隣自治体等との連携の強化
 - 災害時情報連絡体制の強化
 - 消防団員の加入促進・処遇改善、資機材の充実
 - 地域での危険箇所の把握や防災訓練の実施
 - 災害体験等の実施
 - 備蓄の確保 等

② 犯罪・事故から人を守るまちづくり

交通事故に遭わない・起こさないために、交通安全への正しい知識が大切です。交通ルールを守るだけでなく、反射材を身に着けるなど、自分で積極的に身を守る対策も大切です。また、SNS等での犯罪やトラブルも増えています。情報モラルへの理解とそれらの危険性を認識し、犯罪に巻き込まれないようにしていくことが大切です。また、詐欺なども多様化・高度化しており、それらの情報や対策を地域で共有し、声を掛け合うことも大切です。防犯意識の向上と防犯力強化を目指し、普及啓発を図ります。

- 取組み例
- 交通ルールの普及啓発
 - 交通安全講習会の充実
 - SNS・インターネットトラブル、情報モラルの普及啓発 等

③ 安全・安心して日常生活を過ごせるまちづくり

人と人とのつながりや助け合いを大切にし、全ての人が安全で安心して生活できるようサービスや事業の充実を図ります。ただし、行政サービスだけでは全ての対応は困難です。地域行事参加など日頃からのコミュニティへの参加や地域での見守り活動を通じ、地域とのつながりを持ちながら、誰一人取り残すことなく、“お互いさま”で助け合いのまちづくりを進めていきます。

- 取組み例
- 地域での見守り活動の充実
 - ICTなどを活用した見守りの充実
 - 生活困窮者への経済的支援の継続
 - 障害者地域生活支援事業等の充実
 - 子どもが遊べる場の検討
 - 認知症の人やその家族に対する支援の継続
 - 地域医療の充実 等

PICK UP!

集いの場「来るっく〜」

誰もが集える場として令和6年5月に鳩ノ巣にオープンしました。鳩の鳴き声（クルックー）と、たくさんの人に来てほしいという思いを込め名付けられました。認知症予防のための体操・ゲームの実施や認知症の相談など、住み慣れた地域で生活できるよう社会参加の機会を作ることが目的としています。

PICK UP!

人にやさしい道づくり整備事業

町内の公共用道路で、段差が高い・危険である等の理由により、高齢者や障害者の方などの通行が困難な道路について、申請により路面舗装・段差解消または手すり設置などを行い、安全かつ快適に道路が利用できるよう整備を行っています。

効率化（無駄をはぶく・まとめる・やめる）

将来像 1 スマートなまちづくり

人口減少、高齢化が進む中で、限られた予算、人材で複雑化する課題や目まぐるしく変化する時代に対して町として取り組んでいく必要があります。希望する事業をすべて行っていくことは困難です。町として取り組む優先順位をつけ、取捨選択をしながらまちづくりを進めていく必要があります。取捨選択するだけでなく、今までの業務や取り組みの効率化を図りながら進めていくことも重要です。行政サービスを支える庁内の効果的な組織運営や人材育成等、また、効果的な情報発信などを行っていくことが大切です。暮らしの最適化を考えながら、分かりやすい、伝えやすいスマートなまちづくりを進めます。

① 効果的な組織運営、人材配置・育成

人口減少、高齢化とともに、世の中はさらに複雑化し、町が直面する課題もより増えてくることが想定されます。まちづくりを担う行政職員が力を十分に発揮できる環境・体制を整えることが重要です。適材適所な人材配置と育成、また、業務負担の軽減や円滑な業務運営を図るため、人事異動のサイクルや専門職員の配置などを検討するとともに、各事業での知見やノウハウなど、担当が変わっても引き継いでいけるような体制を整えていきます。

- 取組み例**
- ジョブローテーションの見直しや専門職員配置の検討
 - 基礎研修等の実施による人材育成
 - 効果的な職員配置の検討
 - 事務手順等のマニュアル化による業務の円滑化 等

② 建物の取捨選択と活用の見直し

建物の維持管理には費用が掛かるため、機能集約や、複合化、縮小など、施設活用の見直しを図ることが求められます。施設の活用にあたっては、オンラインネットワークを活用するなど新たな手法も検討していきます。また、長年放置された空き家などは倒壊等の危険や防犯の観点からも、除却を含めた利活用等を検討していきます。

- 取組み例**
- 既存施設の有効活用と必要に応じた施設の機能集約・複合化・縮小の検討
 - 施設のオンラインネットワーク化など新たな手法の検討
 - 空家等活用促進事業交付金の活用 等

MEMO まちづくり

町が抱える町有財産

町には庁舎、学校などの他にも、未利用地や遊休施設などの町有財産があります。経年劣化等から建物等の利活用は難しく、町の財産として今後どのように活用していくか検討が必要です。

③ 情報発信の改革

様々な情報が世の中にあふれる中、行政から伝えたい情報が埋もれてしまう傾向があります。必要な情報にアクセスしやすくすることで、情報が効果的に活用されるものと考えます。役場からの情報発信は、多言語化ややさしい日本語、音声認識付き機能を活用するなど、様々な人が受け取りやすい方法を検討していきます。また、役場からの発信だけでなく、住民同士が情報交換・交流できるツールなどを検討するとともに、今までのコミュニケーションを大切にしながらデジタル化等による負担軽減についても検討していきます。

- 取組み例**
- チャットボットの活用などによる行政情報のスムーズな取得促進
 - 多言語化や音声認識付き機能の活用による情報発信の検討
 - 住民同士の情報交換・交流ができるツールの検討
 - 回覧板等のデジタル化の検討 等

PICK UP!

やさしい日本語

やさしい日本語とは、普段使われている言葉を外国人の方にも分かるように配慮した簡単な日本語のことです。簡単で分かりやすい言葉に変換することで、誰でも理解しやすい有効な表現になります。

例：高台に避難してください → 高（たか）い場所（ばしょ）へ逃（に）げてください
こちらに記入願います → この紙（かみ）に書（か）いてください

将来像 2

フラットなまちづくり

コロナ禍を経て、オンラインでの会議や申請も一般的となりました。デジタル化を進めていくことで、窓口のワンストップ化や遠隔地とのオンライン接続など、地域格差解消や移動時間及び業務負担の軽減により、多様な働き方の実現、効率的な事業展開が可能になると考えられます。職員誰もが円滑に業務を行えるようマニュアルの作成や、スペシャリストの育成などを行うことで、情報が集積され、質を保ちながら業務対応できるよう検討します。同じ目線でみんなと育むフラットなまちづくりを進めます。

① デジタル化などによる窓口業務の効率化の検討

住民及び職員の負担軽減のため、申請などのデジタル化を進めていくことで、窓口のワンストップ化を検討します。紙との併用を行いつつも、端末による書き損じ等のチェック機能で業務の効率化を図ります。

- 取組み例
- マイナンバーカードの活用や窓口のワンストップ化
 - 窓口での端末利用の推進 等

② 業務の遠隔化の検討

デジタル化の導入とともに業務の遠隔化を行うことにより、移動時間が軽減されることで、多くの行政サービスを効率的に提供できると考えられます。継続的な訪問が必要な業務などにタブレット等を活用し、オンライン相談を実施するなど、新たな業務の在り方を検討し、より多くの対象者とのコミュニケーションに充てるなど、業務の転換による効率化を図ります。職員の不足や業務の増加にも柔軟に対応できるよう多様な働き方を検討していきます。

- 取組み例
- タブレット等を活用したオンライン相談などの検討
 - 多様な働き方の検討 等

③ 業務負担の平準化と質の維持

質の高い行政サービスを提供するためマニュアルの整備やスペシャリストなどの育成を検討します。また、効果的な組織運営ができるよう組織体制の見直しも検討します。

- 取組み例
- 質の高い行政サービスの提供を可能とするマニュアルの整備
 - 組織体制の見直しによる業務負担の平準化
 - 業務内容に応じたスペシャリストなどの育成検討 等

④ 誰でも同様のサービスを受けられる体制づくり

総合案内の設置や多言語化、オンラインサービスの活用により、誰でも同様のサービスを受けられる体制づくりを目指します。

- 取組み例
- 総合案内の設置の検討
 - 申請窓口の一元化の検討
 - ピクトグラムなどの標示の明確化による施設の利便性向上
 - 多言語化ややさしい日本語、音声認識付き機能によるサービス案内の検討
 - オンラインサービスの活用による事業などに参加しやすい体制づくり 等

将来像 3 リンク／シェアするまちづくり

職員間の情報共有や他自治体との連携により、効果的・効率的な業務運営を行っています。既存の情報を効果的に集約するとともに、魅力を再発見し、地域一体となった情報発信の検討を進めていきます。また、住民同士が情報交換・交流できるツールなどを検討していきます。情報や知識をリンク／シェアするまちづくりを進めます。

① 庁内の知識の共有や職員間の情報共有

事務手順や根拠法令等の明確化など、庁内における情報共有を通じて、業務の属人化防止や担当不在による質の低下防止につなげ、より効果的・効率的な行政サービスの充実を図ります。

取組み例 ○ 職員間の情報共有による効果的・効率的な業務運営 等

② 他自治体との連携強化

他自治体と連携して情報共有を行うことで、業務の効率化を検討していきます。

取組み例 ○ 既存の会議体との連携継続
○ 自治体担当者同士の連携強化 等

③ 町の魅力をシェアする

発信される情報を効果的に集約していくことを検討します。また、行政の情報発信だけでなく、地域一体となって、インバウンドを含めた観光客や関係人口に向け、町の魅力や情報を発信していきます。

取組み例 ○ 町の魅力の共有と発信方法の検討
○ インバウンドを含めた観光客や関係人口に向けた魅力発信 等

PICK UP!

BLUE+GREEN JOURNAL

「BLUE+GREEN JOURNAL」は平成28年に創刊した“奥多摩町で暮らすことの豊かさ”を広く実感してもらうことを目的とした町公式のタブロイド判フリーペーパーです。住民の方の「やってみたい」が形になった事例です。令和6年10月時点で16号まで発行、町公式というイメージに捉われない奥多摩のディープな魅力を発信し続けています。

まちづくりMEMO

他自治体から学ぶまちづくりのヒント②

住民主体のまちの魅力発信「こ、こすげえー」(小菅村での取組み)

「こ、こすげえー」では、小菅村に住んでいるお母さんや会社に勤めているお父さん、地域おこし協力隊の若者など、年齢や性別を問わずさまざまな人がライターとして活躍しています。村民ライターだけでなく村民もSNS上で小菅村の魅力の発信や小菅村の観光スポットへの口コミを寄せるなど、一人ひとりが「小菅村の良いところをもっと多くの人に知ってほしい、沢山の人来てほしい。」という想いを持って、それぞれの目線から村の情報を発信しています。

④ 住民の意見をシェアする

パブリックコメントや意見交換の場だけでなく、住民同士が情報交換・交流できるツールなどを検討していきます。

取組み例 ○ 困りごとなどを共有する場の検討
○ 住民同士が情報共有できるツールの検討 等

まちづくりMEMO

住民同士でつくる相談プラットフォーム(まちの掲示板)

住民参加ワークショップの中で、住民同士がつながって相談できるプラットフォームやネット掲示板などで情報発信、情報共有ができるといいのではないか、というアイデアが生まれていました。奥多摩町への想いが1つのアイデアになりそうです。

第6次行政改革大綱の位置づけ

第6期奥多摩町長期総合計画に第6次奥多摩町行政改革大綱を包含するものとします。

まちの将来像『自然の中で わたしが くらし つながり 挑戦できる おくたま』を実現するため、町と住民・事業者等が連携したうえで、町の経営資源を最大限活用し、新たな時代に順応した行政サービスの提供や健全な財政運営を行い、効率的で質の高い行政サービスの提供に取り組みます。また、この「自治体運営の方向性」を第6次行政改革大綱と位置づけ、行政改革を推進していきます。

① 新たな時代に順応した行政サービスの提供

目まぐるしく変化する情勢や住民ニーズの変化に対応するため、デジタル化の推進による行政サービスの充実や町と住民・事業者等の情報共有を図る広報・広聴機能の充実、他の市町村との広域連携、多様な主体との連携強化、人材確保と育成など、新たな時代にあった行政サービスの提供に取り組みます。また、多様化・複雑化する住民ニーズや行政課題に的確かつ迅速に対応するため、適時、適切に行政組織の見直しを行うなど、弾力的な行政運営に取り組みます。

- 取組み例
- 行政サービスのデジタル化の推進
 - 窓口のワンストップ化の推進
 - デジタル媒体の特徴を活かした広報・広聴活動の充実
 - 議会の映像配信
 - 産官学民連携の推進
 - 住民等との協創によるまちづくりの推進
 - 自治体間の広域連携の推進 等

② 時代の変化に適応した組織運営と人材育成

人口減少、高齢化とともに町を取り巻く環境は複雑化し、行政課題も多様化していることから、まちづくりを担う行政職員が力を十分に発揮できる環境・体制を整えるとともに、現状の職員数をベースとして、適材適所な人材配置や人材育成を行い、時代の変化に適応した組織づくりに取り組みます。

- 取組み例
- 業務プロセス改革の推進
 - 職員研修の充実
 - 専門職員配置の検討
 - 働き方改革の推進
 - 職場環境の改善
 - メンタルヘルスケアの推進
 - ハラスメント対策の推進
 - 適正な定員管理 等

③ 将来を見据えた持続可能な財政運営の推進

将来にわたって健全で安定的な財政運営を行うため、新たな財源の確保に取り組むとともに、社会経済状況の変化や多様化する住民ニーズに合わせて、事務事業の廃止や行政サービスを見直すなど、限られた財源を効果的かつ効率的に活用し、将来を見据えた持続可能な財政運営に努めます。

- 取組み例
- 国や東京都などの補助制度の活用
 - ふるさと納税制度の推進
 - 将来を見据えた基金の計画的な積立及び活用
 - 特別・企業会計への繰出金の抑制と経営改善
 - 事務事業の廃止や抜本的な見直しの検討
 - 町有財産の適正な管理と利活用 等

第6期奥多摩町長期総合計画 策定メンバー

長期総合計画審議会委員

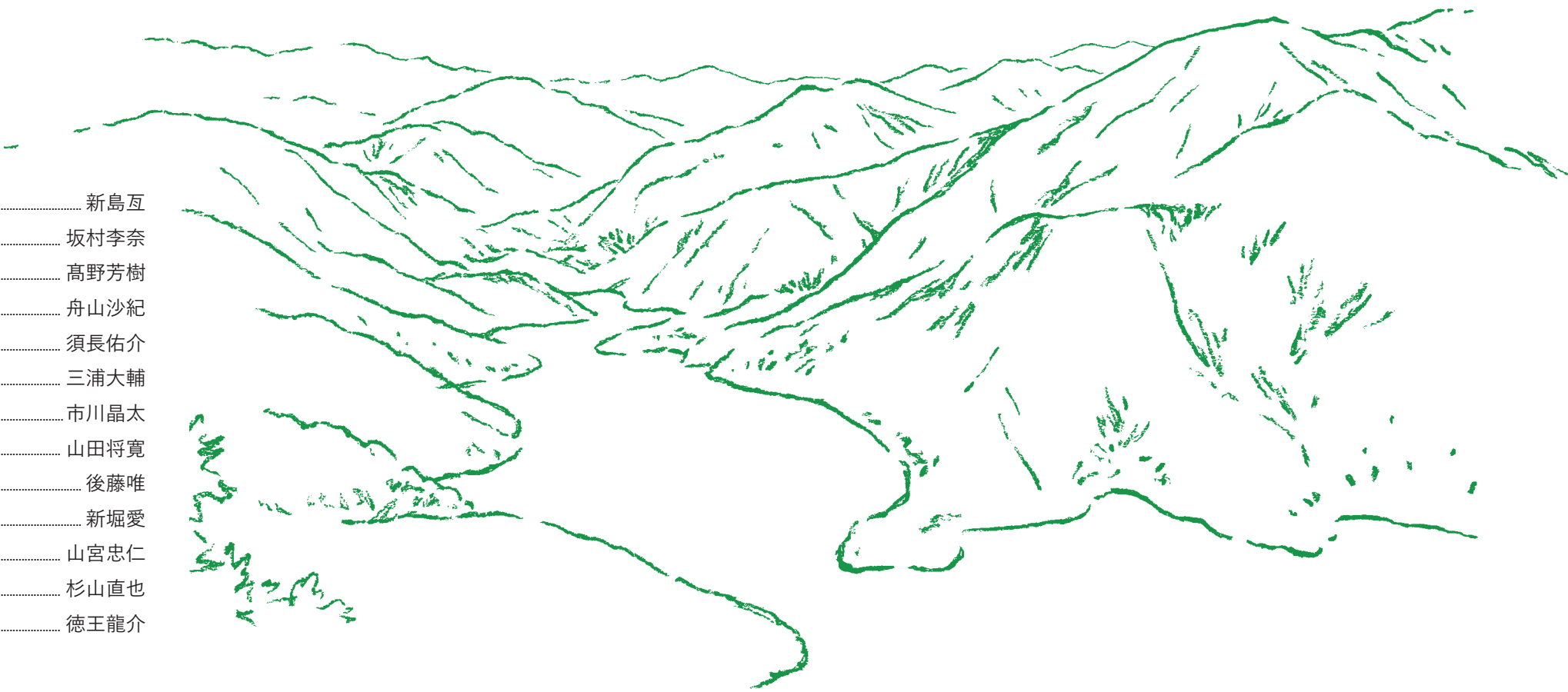
会長	行政相談委員（元教育長）	原島金廣
副会長	奥多摩町議会	議員 森田紀子
	奥多摩町選挙管理委員会	原島富子
	（教育相談員、こども家庭センター相談員）	
	青梅商工会議所	事務局長 大野哲明
	株式会社東京・森と市庭	代表取締役 野口洋
	沿線まるごと株式会社	代表取締役 嶋田俊平
	奥多摩町まちづくり委員会	委員長 沼倉正毅
	住民委員	船越直美
		山口まり子
		市原達也
事務局	企画財政課長	杉山直也
	企画財政課課長補佐兼企画調整係長	徳王龍介
	企画財政課企画調整係主事	新堀愛

長期総合計画デザインチーム

株式会社ミゲル	曾田夕紀子
長期総合計画審議会委員	船越直美
長期総合計画審議会委員	山口まり子
多摩大学総合研究所客員研究員	豊田幸子
企画財政課企画調整係主事	新堀愛

長期総合計画策定に係る若手職員ワーキンググループ

企画財政課契約管財係長	新島亙
総務課主任	坂村李奈
住民課主任	高野芳樹
福祉保健課主任	舟山沙紀
福祉保健課主事	須長佑介
福祉保健課主事	三浦大輔
環境整備課主事	市川晶太
教育課教育係長（事務局兼務）	山田将寛
教育課主任	後藤唯
企画財政課主事（事務局兼務）	新堀愛
事務局 企画財政課長〈～R6.3〉	山宮忠仁
企画財政課長〈R6.4～〉	杉山直也
企画財政課課長補佐兼企画調整係長	徳王龍介



計画策定アドバイザー

多摩大学総合研究所 所長 松本祐一
客員研究員 丸谷晴道
客員研究員 豊田幸子

制作

クリエイティブディレクション 曾田夕紀子（株式会社ミゲル）
アートディレクション・デザイン 根本真路
イラストレーション 五味健悟

令和7年3月

発行者 奥多摩町
〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川215番地6
編集 奥多摩町企画財政課
電話 0428-83-2111（代表）